

水曜ぶらす

スマート シニア

ネットと高齢者

②

福岡県筑紫野市の会社社長、藤澤修三さん(64)は、午前6時ごろ起きるとすぐに電子血圧計で血圧を測る。その数値をタブレット端末「iPad(アイパッド)」に入力してから散歩に出るのが日課だ。「1週間ごと、1か月ごとのグラフがすぐに出るので、受診時に見てもらおう。医師からほめられますよ」

アイパッドの軽さや扱いやすさにひかれ、その機能を使いこなすことに熱意を注ぐ。昔の写真や手紙を読み取って保存。「好きな酒は焼酎の黒霧島」といった自分のプロフィールも記入した。「私の人生情報です。これを見れば、1

「健康」「終活」デジタルで



「iPadシニアバカ」を自称し、「終活アプリ」を開発した藤澤さん(福岡市博多区で) —中可雅信撮影

00年先の子孫も『平成のおじいちゃん』のことが分かる」

経営する広告会社では、アイパッド版のエンディングノートの開発に取り組んだ。元気なうちに葬儀や相続について考えておく「終活」を、デジタルの世界で行えるアプリケーションソフト(アプリ)だ。

昨年8月に完成。「私ノート」と名付け、インターネットで無料でダウンロードできるようにした。葬儀やお墓に関する希望を記入するページのほか、知人の連絡先を記録

する「アドレス帳」もある。将来は、自分の葬儀の際に、参列してほしい人に葬儀社から自動的に連絡がいくようにするという。

日記をつづるためのページも用意した。「動画を撮って編集するのも簡単。家族つなぎ、生き生きと暮らすための道具として活用してほしい」。今年はアンドロイド系タブレットやスマートフォン版も出す予定だ。

*

高齢者のデジタル生活を支える事業に専念するため、別会社「デジ・アド」を設立。病氣予防のためのアプリ「健康ノート」の開発を始めた。

福岡市東区の原土井病院理事長で会員制交流サイト「フェイスブック」の仲間である原寛さん(80)から、「元気で長生きする人を増やすために役に立てられないか」と提案されたのがきっかけだ。

大学や企業と連携し、健康診断のデータや血圧などの値が毎回自動的に入力されるシステムを作る。これをもとに、医師の助言を受けたり、食事内容の写真を送って栄養士からアドバイスを受けたりできるようにする。

原さんは10年ほど前、紙の「健康ノート」を作った周りの高齢者に配ったが、「血圧などを書き込むのが面倒くさい」とあまり使われなかった

という。「手軽なタブレット端末の登場で、医療も『スマート化』を図る時代になった。上手に使って健康を維持する人が増えれば、医療費の増大も抑えられる」

*

藤澤さんは「ノート」の使い方を教えるトレーナーの養成にも取り組む。2月には高齢者を対象に養成講座を始める予定だ。「情報弱者になりがちなシニアに学びの場を提供したい。生きがいや新たなビジネスの創出にもつながる」

新会社の名刺には、肩書のところをこう刷り込んだ。「iPadシニアバカ」と。

(玉城夏子)

訂正 16日の記事で、藤澤さんの住所が太宰府市とあるのは、筑紫野市の誤りでした。